

介護職員初任者研修課程カリキュラム表(介護職員初任者研修過程)

| 科(科目)名 | 内 容 | 実施計画 | 科目番号 |
|---------------------------------|------------------------|--|-------|
| (1)職務の理解 (6時間) | ①多様なサービスの理解 | 【指導目標】研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 講義により、以下の学習を行う(DVD教材使用) ・今研修課程の全体像について ・キャリアパスの具体的なイメージについて ・介護保険によるサービス(居宅・施設)及び介護保険外のサービスについて | (1)-① |
| | ②介護職の仕事内容や働く現場の理解 | 講義により、以下の学習を行う(DVD教材使用) ・多様な働く現場における介護職としての仕事内容について ・介護の職場とサービス提供の流れについて | (1)-② |
| (2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間) | ①人権と尊厳を支える介護 | 【指導目標】介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点、及びやってはいけない行動の例を理解している。 講義により、以下の学習を行う(DVD教材使用) ・QOLとノーマライゼーションの考え方について ・人権と尊厳の保持及び個人も権利を守る諸制度について ・高齢者虐待防止及び身体拘束禁止について | (2)-① |
| | ②自立に向けた介護 | 講義とグループワーク演習により、以下の学習を行う ・具体的な事例を用いて、自立支援の視点と介護予防の取り組みを学ぶ | (2)-② |
| (3)介護の基本 (6時間) | ①介護職の役割、専門性と多職種との連携 | 【指導目標】介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解している。 介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。 講義により、以下の学習を行う ・介護環境の特徴(訪問介護と施設介護の違い、地域包括ケアの方向性)について ・介護に関わる職種とチームケア(多職種連携)について | (3)-① |
| | ②介護職の職業倫理 | 講義により、以下の学習を行う ・介護サービスの公共性と職業倫理について ・介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等について | (3)-② |
| | ③介護における安全の確保とリスクマネジメント | 講義により、以下の学習を行う(DVD教材使用) ・介護サービスの提供と安全管理体制について ・事故予防及び安全対策(事故分析と報告体制について) ・感染症対策のための基本知識について | (3)-③ |
| | ④介護職の安全 | 講義により、以下の学習を行う(DVD教材使用) ・介護職の健康管理(ボディメカニクスの原理、ストレスマネジメント及び腰痛対策、腰痛体操等)について ・介護職員の労働諸権利と労働法について | (3)-④ |
| (4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間) | ①介護保険制度 | 【指導目標】介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 講義により、以下の学習を行う ・介護保険制度創設の背景、目的及び動向について ・介護保険制度及び医療年金制度の仕組みの基本的理解 ・制度を支える組織・団体の機能と役割、財源について | (4)-① |
| | ②医療との連携とリハビリテーション | 講義により、以下の学習を行う ・医行為と介護について ・医療・介護職とのチームケアについて ・リハビリテーション職種連携について | (4)-② |
| | ③障害者福祉制度およびその他制度 | 講義により、以下の学習を行う ・障害者福祉制度の理念とICF(国際生活機能分類)について ・障害者自立支援の仕組みの基本的理解 ・個人の権利を守る諸制度(個人情報保護法・成年後見制度・日常生活自立支援事業)について | (4)-③ |

| | | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|--|-------|
| (5)介護におけるコミュニケーション技術 (6時間) | ①介護におけるコミュニケーション | <p>【指導目標】高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを把握してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識する。この認識を踏まえ、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。</p> <p>講義とグループワーク演習により、以下の学習を行う(DVD教材使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義について ・コミュニケーションの技法について ・利用者・家族とのコミュニケーションについて ・利用者状況別のコミュニケーション技術について | (5)-① |
| | ②介護におけるチームのコミュニケーション | <p>講義とグループワーク演習により、以下の学習を行う(DVD教材使用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームアプローチとチーム連携について ・観察・記録・情報伝達(報告)と詳細の共有化について ・コミュニケーション環境の重要性とケアカンファレンスについて | (5)-② |
| (6)老化の理解 (6時間) | ①老化に伴うところとからだの変化と日常 | <p>【指導目標】加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。</p> <p>講義により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の発達とところの変化について ・老化に伴うからだの変化、健康とライフサイクルについて | (6)-① |
| | ②高齢者と健康 | <p>講義により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多い病気の基本知識について ・高齢者に多い病気と生活上の留意点について | (6)-② |
| (7)認知症の理解 (6時間) | ①認知症を取り巻く状況 | <p>【指導目標】介護において認知症を理解することの必要性を認識し、認知症の利用者を介護する際の判断の基準となる原則を理解している。</p> <p>講義により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアの理念とパーソンセンタードケアについて | (7)-① |
| | ②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | <p>講義により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の基礎知識について ・認知症の原因疾患について ・認知症の中核症状と行動・心理状況について | (7)-② |
| | ③認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 | <p>講義とグループワーク演習により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症に伴うところと体の変化とその対応について ・レスパイトケアのについて | (7)-③ |
| | ④家族への支援 | <p>講義により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症家族介護者の現状の理解について | (7)-④ |
| (8)障害の理解 (3時間) | ①障害の基礎的理解 | <p>【指導目標】障害の概念とICF、障害者福祉の基本的考え方のほか、介護における基本的な考え方について理解している。</p> <p>講義により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の理念とICF(国際生活機能分類)について ・障害者福祉の基本理念について | (8)-① |
| | ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 | <p>講義により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体障害、知的障害、精神障害、及びその他の障害について | (8)-② |
| | ③家族の心理、かかわり支援の理解 | <p>講義により、以下の学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の家族支援のあり方について ・レスパイトケア及び受容支援について | (8)-③ |

| | | | |
|-----------------------------------|--|--|-------|
| (9)こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間) | 【指導目標】介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 | | |
| | [ア 基本知識の学習(11時間)] | | |
| | ①介護の基本的な考え方 | 講義により、以下の学習を行う ・倫理と理論、法的根拠(エビデンス)に基づく介護について | (9)-① |
| | ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 | 講義により、以下の学習を行う(DVD教材使用) ・高齢者の心理について ・自己実現と生きがい作りについて | (9)-② |
| | ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | 講義により、以下の学習を行う ・身体各部の名称とはたらきについて ・運動動作に関する基礎知識について ・神経系に関するからだのしくみについて ・バイタルサインとその確認について | (9)-③ |
| | [イ 生活支援技術の講義・演習(52時間)] | | |
| | ④生活と家事 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用)* 講師2名の指導体制で実施 ・家事支援の基本原則、必要性と目的について ・家事支援における介護技術演習(調理・掃除・洗濯) | (9)-④ |
| | ⑤快適な居住環境整備と介護 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用)* 講師2名の指導体制で実施 ・住環境整備について(車椅子・ベットを用いての演習) ・バリアフリーと住宅改修・福祉用具貸与について | (9)-⑤ |
| | ⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用)* 講師2名の指導体制で実施 ・整容に関する基本知識について ・整容における介護技術演習(洗面・全身の清潔更衣動作) ・口腔ケアにおける介護技術演習 | (9)-⑥ |
| | ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用)* 講師2名の指導体制で実施 ・移乗・移動に関する基礎知識について ・移乗・移動に関する福祉用具について ・移動と社会参加(外出)の留意点と支援について ・移乗・移動の介護技術演習 | (9)-⑦ |
| | ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用)* 講師2名の指導体制で実施 ・食事に関する基礎知識について ・食事環境の理解と整理について ・食事と社会参加の留意点と支援について ・食事介助の介護技術演習 | (9)-⑧ |
| ⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用)* 講師2名の指導体制で実施 ・入浴と身体清潔の保持に関する基礎知識について ・入浴環境の理解と整理について ・入浴介護と羞恥心・プライバシーの確保について ・入浴ケアの介護実技演習 | (9)-⑨ | |
| ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用)* 講師2名の指導体制で実施 ・排泄に関する基本知識について ・排泄環境の理解と整理について ・排泄の介護と羞恥心・プライバシーの確保について ・排泄ケアの介護技術演習 | (9)-⑩ | |
| ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用)* 講師2名の指導体制で実施 ・睡眠に関する基礎知識について | | |

| | | | |
|--------------------|------------------------------|---|--------|
| | ろとからだのしくみと自立に向けた介護 | ・睡眠環境の理解と介護について ・ベットメイキング及び安楽姿勢・体位交換・瘡褥予防ケアの介護実技演習 | (9)-⑪ |
| | ⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | 演習により、以下の介護実技の学習を行う(DVD視聴教材使用) * 講師2名の指導体制で実施 ・終末期ケアに関する基礎知識について ・終末期ケアの実践について ・終末期における利用者・家族との関わり方、心理状態の理解について、グループ演習を行う | (9)-⑫ |
| [ウ 生活支援技術演習(12時間)] | | | |
| | ⑬介護過程の基礎的理解 | 講義と演習により以下の学習を行う(DVD視聴教材使用) ・介護課程の基礎的理解について ・介護課程の展開について、具体的事例を活用してグループ演習 | (9)-⑬ |
| | ⑭総合生活支援技術演習 | 講義と演習により以下の学習を行う(DVD視聴教材使用) ・[事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題]のサイクルグループ演習を行う ・事例は、「片麻痺」及び「要支援者」の2題で実施する。 | (9)-⑭ |
| (10)振り返り (4時間) | ①振り返り | 【指導目標】研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。 講義により、以下の学習を行う ・研修全体の振り返りと到達目標確認について ・根拠に基づく介護についての要点 | (10)-① |
| | ②就業への備えと研修終了後における継続的な研修 | 講義により、以下の学習を行う ・研修後の学びとその機会について(生涯学習) ・今後のステップアップについて ・継続研修の当法人介護部門の事例紹介 | (10)-② |